

要旨

I. 目的

本研究の目的は外国人ケアに関する教育プログラムのプロセス評価を行うことである。さらに、具体的な学びと実践への活用から、有用性と改善点を検討し、周産期に焦点を当てた教育プログラムの開発への示唆を得る。

II. 方法

本研究は看護者を対象に行われる外国人ケアに関する教育プログラムの評価を行う評価研究である。「外国人ケア向上のための看護者育成プログラム」は、講義と外国人模擬患者による演習から構成される 3 時間 30 分のプログラムである。

プロセス評価はプログラムの参加者全員を対象に研究者が作成した質問紙を用いて、プログラム直後に実施した。またプログラムに参加した助産師を対象に、具体的な学びと実践への活用を明らかにするため、プログラム終了後 1 週間以内と 1 か月後の計 2 回の半構成的面接を実施した。

III. 結果

プロセス評価は、プログラムの参加者 35 名のうち 34 名から回答を得た(回収率 97%)。開催日時、所要時間、参加人数、使用した教材・資料については、概ね良好な評価が得られた。しかし、講義については「時間が長い」、演習については「時間が短い」「グループの人数が多い」「教材・資料がわかりにくい」という指摘があった。プログラムの満足度は 10 段階の VAS による評価で平均 8.4 であり、プログラムが今後役立ちそうか、また参加したいと思うかという点については、回答者全員が肯定的な反応を示した。

具体的な学びと実践への活用について、助産師 5 名にインタビューを実施した。具体的な学びとして、【初めて知った異文化看護という分野】【考えてもみなかった通訳の問題】【感覚を頼りにしていたケアの確認】【他者からも学んだコミュニケーション技法】【単にリソースを使用するだけでは伝わらないという実感】【ケアより「英語」に集中してしまうことへの気づき】【同じ言語で理解したい】【まずは話してみることが大事ということの再確認】【逃げないでまずは伝えようという姿勢の大切さ】、実践への活用については、【同行者による通訳に注意する】【医療保険の有無を確認する意識をもつ】【相手の主張や希望を正しく理解する】【お互いの考えをすり合わせていく】【日本人と同じケアができるようにしていく】【コミュニケーションを見直し変えていく】【同僚とのリソースの有用性の共有】【一歩進んだケアの実践】のカテゴリが得られた。

IV. 結論

プログラムの構成や運営については概ね良好な評価が得られ、演習の更なる充実の必要性が示唆された。内容については、通訳者との連携、リソースの活用、外国人患者に対するコミュニケーションの基本姿勢が不可欠であり、強化していく必要性が明らかになった。周産期に焦点を当てたプログラムには、多様な背景をもつ妊産褥婦の具体的な事例の紹介、様々な場面設定での演習を通じて、文化や価値観を理解し調整する能力が獲得できるような内容にしていく必要性が示唆された。